



支部のブログ
担当で～す

中台 和宏
(H5・社会卒)

昨年城東支部のブログ開設からお手伝いさせていただくことになりました。情報化のすすむ現在、新しい手法で東洋大学校友会を、特に城東支部を盛り上げていけるようにと思い、特にパソコン関係が得意な訳ではありませんが、独学で勉強しながら仕事の合間に記事をアップしている次第です。

掲載記事数も少しずつ増え、一番熱心な神奈川支部さんには及びませんが、全体で3番手くらいにつけていると自負しています。

これまで取り上げた記事は、支部活動の各種お知らせとその報告が一番多いのですが、卒業生ならば誰もが気になるであろう、学生スポーツ、とりわけ陸上競技部と硬式野球部を取り上げて神宮球場の応援や大学三大駅伝なども記事にして掲載しています。

もし時間があれば、アイスホッケーや相撲部、卓球部など他の学生の応援も報告したいと思っています。学生スポーツを通じて、地方の校友会のブログ担当者と連携して、母校の為に頑張る学生の応援や浦水会とも一緒に支援できたら良いかなと思います。

また、城東支部には林家時蔵師匠をはじめ、マジシャンの黒崎さん、シャンソン歌手の今井杏羽子さんなどのほかに、茶道や書道の先生、上場企業の役員や東洋大学のプロネットなどで専門家として活躍の方ほか個性豊かな方々がおられますので、城東支部校友を紹介するコーナーもつくっていききたいと思っています。

支部ブログを見て、城東支部活動に興味を持っていただき、支部活動に参加してくれる校友が増えてくれたら。そういう方には未だお会いしていませんが、いつかそんな日がくることを願って、地道にブログの更新をこれからも続けていききたいと思っています。

◆東洋大学校友会城東支部ブログ
<http://alumni.toyo.ac.jp/blog/branch-01/joto/>

◆投稿は下記のメールアドレスへ
joto_koyukai_toyo@yahoo.co.jp



大不況の中での
会社設立

古谷 敦司
(H14年・法律学科卒)

卒業して8年。社会人となって現在まで3回、やっと慣れたと思う職場をあとに転職を繰り返してきました私です。安定よりも高い頂をと背伸びする私は、現在平成21年に設立した会社で福祉用品の小売卸売業を営んでおります。この道を選んだのは、両親の仕事の関係で、幼少の頃から祖父母に育てられた影響が大きく、高齢者がいかに健康で長生きできるか、高齢者となっても人生を楽しめるか、私が全力で取り組みたい仕事はここにあると感じたからです。

高校から始め、東洋大学まで7年間続けてこられたボクシングを引退後、社会人となってから、時には大失敗に落ち込んで朝まで酒を飲む日も、営業歩合の入金日、通帳記入が楽しみだった成功の日もありました。

平成19年、私の結婚式の1週間前に98歳で他界した祖父、学生時代に何度も聞かされた人間の幸せ「健康」「長命」「子孫繁栄」という言葉。その言葉にも通じる現在の仕事は、介護を受ける生活ではなく自立した高齢者へコミュニケーションをとりながらの物販が主です。物販以外にも映像で残す自分史の製作、更には高齢者の方へという枠から脱したLED電飾ボードやセラミックスなどの商材も扱っております。

私を支えてくれるのは家族はもちろん、学生時代にボクシングで培った根性、忍耐、そして人脈です。東洋大学ボクシング部員時代、1部昇格をかけた入れ替え戦で私の勝利した時点で創部以来初の1部昇格を決めた当時、コーチとしてご指導いただいた現在の校友会城東支部副支部長「野中健司さん」。仕事で扱う主力商品のメーカー、株式会社タグチ・エンタープライズ会長「田口信一朗さん」。今もお世話になっている東洋大学卒業の学歴を持つ大先輩です。仕事の営業先など色々とご一緒させていただく東洋大学OB、OGの方々。分るまではただの営業マンとして距離を置かれても分ってからは急接近。必ず結果に結びつかなくても、そこから更

に話が展開することもありました。私の後輩にあたる方々も、仕事だけではなく長い人生の中でひとつひとつの出会いを大切にしてください。

今年新しい家族が増える我が家に、1日でも早く会社を軌道に乗せて落ち着いた生活をさせたいと奮闘する日々です。



感謝の気持ちを
忘れずに

川口 浩
(H3・商学卒)

私は、平成3年3月に経営学部商学科を卒業しました、川口浩と申します。

在学中に国家公務員国税専門官試験に合格しましたので、卒業後はそのまま東京国税局へ入りました。入局後は税務大学校での研修を経て、浅草、麻布、神田などの税務署を3年周期で転勤し、今は京橋税務署におります。

仕事は、主に法人の税務調査ですが、今の私があるのは東洋大学のお陰と、常に感謝しています。

というのは、大学時代に学んだ知識が今の仕事に役立っているというよりも何よりも、栄養失調で倒れる程の貧乏学生だった私に、声をかけてくれる友人や先生がいらっしゃり、また、大学からいただいた奨学金のお陰で、卒業までできたと思っているからです。

これからも感謝の気持ちを忘れず、校友会でも何でも、微力ながら恩返しができるように、と思っています。



いつまでも
輝いていた

山崎 雅子
(S40・英米文学科卒)

“まだ働いているの”と友人達と会うと必ずいわれるたびに、私は働くのが大好きなのといいながら、今日もラッシュの電車に乗り込み現役で働いております。

現在のような生活を送れるのも4年間の大学生活で、良き先輩、同期生に巡り会えたからです。高校までの学生生活とは違い、大学のサークル活動の部員達は環境の違う地方出身者が多く、新しい人間関係ができ、当時としてはフレッシュな気持ちになれました。

卒業何十年？いまだに当時青春時代を過ごした仲間達から東京の下町の女性は物おじせず、積極的に話しかけてきたと、好奇の目で見られていたようです。

日常生活でも刺激的なことが多く、脳と指先が休む暇が無い状態です。

今一番遊んでもらっているのはパソコンで四苦八苦していますが、その時間は何と充実していることか、アツという間に時間が経っています。

気分転換に地方の旧友を訪ね、美味なものに舌つづみを打つのも幸せです。

人生の棚卸しがどうなるか？と思いつつ、いつまでも輝いていた女性であるためには、感謝、感激、感動、好奇心を忘れず、今日もいつもと変わらない生活に追われています。



継続は宝物

蕪塚 幸子
(H20・国文卒)

私の家の外廊下で、寒い冬の朝や茜色の夕日の空に、墨田区の焼却場の煙突とスカイツリータワーと富士山が背競べしているのが見えます。私は、荒川の対岸の下町という地味であるが、一本筋の通った職人達の仕事場が並ぶ水路に囲まれた街に生まれ育ちました。

今は、高層マンションや江戸東京博物館・国技館が立ち並び、大都会風になりました。相撲と共に国技館が両国に戻った記念に始まったベトーベン「第九」に参加し、26年目に成りました。お陰で、ドイツのハイデルベルグやイタリアのジェノバで歌う機会も得ました。スタッフとしての奉仕をした事で国内外の人々との出会いは、良い思い出です。

一方東洋大の卒業まで、多くの障害の為、長い年月がかかり、人に茶化されましたが諦められず、学業を続けました。勤務先では、嫌味も言われ授業の為の休暇も許可されない時もあったのです。退職後、平成20年3月に卒業式を迎えることが出来ました。大学を先に卒業した息子と娘が卒業式を見守ってくれた事は、何より嬉しく思っています。

これからは、母の介護と絵の道を継続し、夢を諦めない事です。大学での諸先生、諸先輩のご指導を感謝し、この宝物を大事に、持ち続けたいと思います。



入学後50年、初めて
城東支部に参加して

織原 秀雄
(S39・経済卒)

平成22年1月19日午後6時半からその会は始まった。先輩や後輩達を見ていると、50年前の現役の学生のごとくスクールカラーは何一つ変わっていません。

愚直なまでの誠実さ。ねばり強い努力性。朴訥。素朴。そんな人間像は今もって健在だった。それが時には地味に映り、無骨さに誤解されてしまう。

しかし、ものごとは全て二面性をもつ。例えば、日の当たる場所は明るいが、日陰

浦水会活動に参加して

「第12回文学鑑賞会」

射手 克己
(S47・応化卒)

平成21年9月26日(土)、午前11時15分京成柴又駅前広場(寅さん像あたり)に集合し、総勢56名が参加しました。校友会から大滝顧問、浅窪支部長、野中副支部長、私の4名でした。

小田浦水会城東支部長の挨拶の後、本間浦水会副支部長(事業担当)に本日の予定について説明を受けて、午前11時30分柴又帝釈天「題経寺」に向けて参道を歩きました。約200m余にうなぎ屋、団子屋、土産物屋などが立ち並び、昔ながらの趣を今なお色濃く残しておりました。当日は柴又のお祭りで人出も多く、校友である岩崎社長の亀家本舗のお土産屋も客で溢れていました。

柴又帝釈天「題経寺」に到着し、講師・葛飾区の郷土と天文の博物館学芸員 谷口栄氏による題経寺諸堂内及び二天門建築装飾彫刻等の説明を受けて後、見学し、更に帝釈堂彫刻ギャラリー、大庭園を見学した。帝釈堂木彫については、昭和4年に総擧造りの帝釈堂が完成し、この堂を巡る外壁の木彫は法華経説話より取材し、当時の名人により彫られ、重要文化財の価値があります。

つづいて、柴又5丁目8番の題経寺墓地内にある浅間山噴火川流溺死者供養碑に参拝した。その後、柴又学び交流館

は暗い。明暗というもの。表には裏がある。表裏一体というもの。だから誤解されても気に病むことではない。

そんな地味な愚直の中にも、観想の一瞬である。香気ただよう観想の華の咲き乱れる時である。それは、七色の虹のような華やかさは無いが、人に安心感や安らぎを与える真実の色だ。それが学生歌になり、今も歌いつがれている。

年代を超え、そんな校友が一つになって、肩を組んで、大学歌を歌い、学生歌を声高らかに歌った。

18歳で白山の門を通過して、実に50年ぶりの歌だった。いつしか涙が流れていた。そろそろ、私の旅の衣も整えなくてはならない。



にて昼食後、谷口氏の帝釈天、嶋俣と柴又、文学から見た柴又等の講義を約30分間拝聴しました。

さらに葛飾柴又寅さん記念会館で映画「男はつらいよ」の世界を堪能した。また、平成13年8月4日渥美清さんの命日に柴又八幡神社古墳で「寅さん」そっくりの埴輪が出土し、それを見て柴又の歴史に更に興味がわいてきました。

最後は葛飾区山本亭。大正から昭和に建てられた当時の実業家の邸宅は書院造りの和室とモダンな洋室が美しく調和し、緑豊かな日本庭園と優雅に泳ぐ鯉もまた良い思い出となりました。